

会 議 録

会 議 の 名 称	第 33 回藤井寺市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和 6 年 3 月 27 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分
開 催 場 所	藤井寺市役所 厚生棟 2 階 研修室
出 席 者	委員：興石 由美子（会長）、小磯 久美子（副会長）、井関 祐子、 岡本 祐典、龍見 美行、爲貞 修子、中辻 智子、山本 多津子 (敬称略)
欠 席 者	下村 富美枝、春名 絵美 (敬称略)
会 議 の 議 題	(1) 市立幼稚園・保育所運営検討部会から子ども・子育て会議への報告について (2) 幼保連携型認定こども園 ななこども園の利用定員変更について (3) 藤井寺市子どもの未来応援プランの令和 4 年度の取り組み報告について (4) 第三期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査の結果について (5) その他
会 議 資 料	○ 次第 ○（資料 1）令和 4 年度教育・保育の量の見込み及び確保方策 評価シート及び訂正理由書 ○（資料 2-1）市立幼稚園・保育所運営検討部会各部会の概要について ○（資料 2-2）答申（案）の作成に向けて(第 4 回部会資料抜粋) ○（資料 2-3）市立幼稚園及び保育所の再編のあり方について（答申）(案) ○（資料 3）幼保連携型認定こども園ななこども園の定員変更について ○（資料 4-1）藤井寺市子どもの未来応援プラン～子どもの貧困対策推進計画～（概要版） ○（資料 4-2）藤井寺市子どもの未来応援プラン～子どもの貧困対策推進計画～令和 4 年度実績報告 ○（資料 5）子育て支援に関するニーズ調査実施報告（概要）
会 議 の 成 立	成立
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記 録 内 容 の 確 認 方 法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている
公 開 ・ 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍 聴 者 数	2 人
そ の 他 の 必 要 事 項	

審 議 内 容 （ 発 言 者、 発 言 内 容、 審 議 経 過、 結 論 等 ）

1. 開会

(興石会長) 挨拶 → (岡田市長) 挨拶

(事務局)

- ・委員 10 名中 8 名の出席により会議成立の旨報告
- ・傍聴者 2 名の旨報告

2. 配付資料

(事務局)

- ・配付資料の確認

3. 報告

(1)令和 4 年度教育・保育の量の見込み及び確保方策 評価シートの訂正について

(事務局)

- ・資料 1 に沿って説明

4. 議題

(1)市立幼稚園・保育所運営検討部会から子ども・子育て会議への報告について

(興石会長)

令和 5 年 2 月 22 日に市長より当会議に諮問された件について、当会議の下部組織である市立幼稚園・保育所運営検討部会で審議・検討をお願いしていた内容の報告となる。

この検討部会には私が副部長として、部会員として春名委員・中辻委員の 3 人も参加し、多くの意見を出させていただいた。

では、部会の事務局である保育幼稚園課より説明をお願いします。

(保育幼稚園課)

- ・資料 2-1～2-3 に沿って説明

(興石会長)

当会議から 3 名が部会に参加し、今後の方針等について、より具体的に提言ができたと思うが、中辻委員は何かご意見などはあるか。

(中辻委員)

検討部会には保育所の所長、幼稚園・こども園の園長も参加されていたが、職員が働きやすいよう尽力されている先生方の熱意が伝わった。また、人員不足の中で自身の負担を顧みず、「職員が幸せに働けることがこどもたちの幸せに繋がる」といった議論が印象的だった。

(興石会長)

ほかにご意見等はないか。

(井関委員)

道明寺こども園に通う児童の保護者の一人として、また、検討部会の傍聴や議事録の確認をした中での感想を述べたい。今年度から 5 歳児クラスが 1 号認定こどもと 2 号認定こどもの混合クラスとなった。運動会や参観等の行事で園内に入らせていただいた際の様子やこど

もの様子等を目にし、良い保育・教育が実施されていると実感した。また、道明寺こども園だけでなく、教育・保育関係者や保護者などの間で広く議論が深まっていけばいいと常々願っていたため、今回色々と検討していただけたことは非常に有り難かった。

今回の答申の内容については一保護者としても納得できるものである。

(輿石会長)

特に問題がなければこの答申案で確定したいと思う。一旦、進行を事務局に戻す。

(事務局)

それでは、会長から市長に答申を手渡していただくが、答申に当たり会長と市長に一言ずついただきたい。

(輿石会長)

昨年3月より議論を重ね、様々な意見が出る中で藤井寺市にとって一番良い方策はないかと考え続けた結果の答申である。市におかれては、本答申の内容を尊重し、熟考のうえ実現していただければと願う。

答申に加え、5回の部会の議論の中で市に検討していただきたい内容として、「公立施設の果たす役割」、「園の規模」、「1号認定こどもに対する3歳児保育・給食の実施」、「教育・保育の楽しさを実感できる職場環境の充実」など6項目について附帯意見を付けている。藤井寺市のこどもたちの幸せのためによりしくお願いしたい。

当会議としては、今まで培われてきた市立幼稚園・保育所の良き伝統に新たな試みを取り入れた藤井寺市ならではの就学前教育・保育の実施に対して応援をさせていただくとともに、子育て施策が市民の生活に寄与することを大いに期待したい。

(岡田市長)

昨年2月に諮問し、部会の中で5回にわたり熱心に議論をいただき、特に本市の幼稚園・保育所・こども園の運営方法について、また、保育所・幼稚園の再編の方向性について、しっかりとした内容でお答えをいただいた。現在課題になっている保育士の働き方改革と人員の確保についても、行政課題として認識しており、今回の答申を含め、本市のこどもを中心にした「子育て」と「子育て」のまちづくり、子育てをするなら藤井寺市と思っただけのようなまちづくりをしっかりと進めて参りたい。

引き続き、子ども・子育て会議としてもこどもたちの育ちの支援をお願いしたい。

素晴らしい答申に対して感謝申し上げます。今後、しっかりと取り組んでいきたい。

- ・輿石会長から岡田市長に答申書の手渡し

(2)幼保連携型認定こども園 ななこども園の利用定員変更について

(輿石会長)

幼保連携型認定こども園 ななこども園の利用定員変更について、保育幼稚園課より説明をお願いします。

(保育幼稚園課)

- ・資料3により説明

(興石会長)

ただいま説明のあった内容について、ご意見等はいかがか。

(中辻委員)

3号認定の0歳児について、市全体として待機児童はあるのか。

(保育幼稚園課)

希望する園と入所可能な園がうまく合わないケースはあるが、育休3年の取得が可能となったために、0歳児については以前ほど定員を確保する必要がないと思われる。なお、今回の定員変更によって、ななこども園で受け入れできなくなったこどもはいない。

(興石会長)

その他、質問がなければ次に移る。

(3)藤井寺市子どもの未来応援プランの令和4年度の取り組み報告について

(興石会長)

事務局より説明をお願いする。

(事務局)

- ・資料4により説明

(興石会長)

ただいま説明のあった内容について、ご質問等はあるか。

(中辻委員)

20²²の評価指標の「朝食を毎日食べている子どもの割合」について、市内のこども食堂を運営する団体は10団体ほどあるが、食べるのに困っているすべてのこどもに利用してもらいたい、伝えたいという思いがある。双方の繋がりがなく活動内容が浸透していないために現在は地域の交流の場として利用してもらっている状態だが、市が把握している困窮家庭と各団体の活動を繋げることはできないか。

(興石会長)

市が個別に把握している情報と協力してくれる団体とを結びつける試みはないか。

(事務局)

各家庭個別の状況把握は難しいと感じているが、相談を受けた場合には、市内のこども食堂等を個別に紹介している。市としては、まずはこども食堂について市民の皆さんに知っていただきたいという思いがあり、3月に広報紙に掲載した「市内こども食堂」のPRをはじめとし、今後も活動紹介などを含め、定期的にこども食堂への理解を深めるための周知・啓発活動は継続して実施したいと考えている。

(興石会長)

知らなければ利用できないし、「利用しても良いものだろうか」など様々な思いもあるため、学校を通じてでも、こどもと団体とが繋がれば良いと考える。そのような状態に陥っているこどもたちに具体的な何かを投げかけてみることは必要だと思う。

(小磯副会長)

国が示しているもの以外に市独自で「情報提供支援」という項目を設けられていることに好感がもてる。本当に支援が届かなければいけないところに届いていないことが一番の課題

ではないだろうか。情報提供支援は継続するとの事務局説明を聞きたいので、一層充実して欲しいし、私たちも何か提案ができれば良いと感じた。

(興石会長)

大事な施策ではないかと思うので力を入れていただきたい。

(為貞委員)

お子さんの精神疾患による医療、入院問題についての相談をお聞きすることがある。学校内にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーもいるが、医療と連携した専門的な支援や連携の強化も大事だと思われる。

(興石会長)

ただいまのご意見に対し、事務局はどうか。

(事務局)

こどもを真ん中に据えて健康に健やかに育てもらうためには、大人たちがネットワークを組んでどのように支援をしていくかを考えていかなければならないと感じている。スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーだけでなく、医療機関も交えて支援していく必要があるかと思うので、いただいたご意見については教育委員会にも伝えておく。

(為貞委員)

教育委員会が担当なのか。

(事務局)

スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーに関しては教育委員会の所管であるが、市内のこどもの安心・安全を守るためには、子育て支援課も一緒になって考えていかなければならないのは勿論で、状況に応じて関係機関が集まってケース会議も開催している。

今後のためにも、いただいたご意見は教育委員会に伝える。

(興石会長)

「このようなことを話せるのだろうか？」と我慢する保護者もいるだろうし、後押しすることで支援の輪が広がっていくと思う。多くの英知を集めることで様々なケースに対応できると思う。

(中辻委員)

11 頁 No.20 「障害児・障害者ふれあい支援センター」について、対象施設数、対象者の年齢を教えて欲しい。また、実績欄に記載されている人数について、「名」「人」「延べ」の違いを説明してもらいたい。

(事務局)

「障害児・障害者ふれあい支援センター」は福社会館の2階にある。対象年齢については調べて後ほど回答したい。

「人」と「名」は単に表記を統一できなかったものである。

(中辻委員)

実績人数に「延べ」がついているところとついていないところがあるが、何か違いはあるのか。

(事務局)

各事業が延べ人数か実人数のどちらで集計しているかの違いである。

(中辻委員)

もう1点、未就学の障害児に対するサービスはあるか。

(事務局)

児童発達支援センターや放課後等デイサービスなど、地域に障害児支援の通所サービスがあり、障害児通所支援事業を利用して早期から発達支援の療育を受けてもらえる。通所受給者証の手続きの相談については子育て支援課でも行っている。

(中辻委員)

民間が提供するサービスか。

(事務局)

公費による負担も発生するため、通所するには市での手続きが必要となる。

(中辻委員)

保育所と通所支援サービスの利用を併用できるのか。

(事務局)

保護者が希望されるのであれば可能である。

(中辻委員)

集団療育のみを希望することもできるのか。

(事務局)

そのようなご家庭もある。

(中辻委員)

重度の障害児ならば毎日通うことも可能なのか。

(事務局)

可能である。保護者の意向に沿った対応が可能である。

(中辻委員)

市立幼稚園・保育所運営検討部会では、公立保育所は最後のセーフティネットでなければならないという使命があり、非常に手のかかるこどもであっても受け入れなければならないが、加配もなくひとり担任で障害児を含めた多くの児童をみており、安全の確保も難しい場合もあるという保育士の発言もお聞きし、すべてを受け入れることが果たして正しいのかと疑問に感じていたため、現状を伺いたく障害児支援について色々と質問させていただいた。

(事務局)

先程の中辻委員からの「障害児・障害者ふれあい支援センター」の対象者に関するご質問であるが、市で発行している子育てマップの案内では、利用希望がある方には登録申請していただくという手続きのようである。

(中辻委員)

対象は小学生以上ということもわかった。

(興石会長)

乳幼児の健診で、保護者の相談を受けるということは可能か。健診を正しく受けていれば何らかの繋がりができるが、健診を受けられない家庭もあるのか。

(事務局)

里帰り、NICU（新生児集中治療室）に入院している場合などの事情もあるので、受診率が100%ということはない。乳幼児健診では保健師が早期発見し、発達に関しての心配があれば、健康課のふれあい相談や子育て支援課のカンガルー教室に繋げフォローアップしている。

さらに、集団療育が必要な子どもに対しては、児童発達支援センターや放課後等デイサービスなどの案内も行っている。

(興石会長)

藤井寺市で出産後の新生児訪問指導はできるのか。

(事務局)

看護師等による全戸訪問を実施している。訪問数は100%ではないが、現状の把握には役立つ。

(興石会長)

相談できる場所があって良かったという実績を重ねていただきたい。

(為貞委員)

お子さんが小さければ発達障害を見分けることが難しく、グレーのまま成長したことによる大人の発達障害も問題視されている。就労するひとり親家庭ならば相談や受診も難しく気づきにくい状況である。電話相談などのサービスはないか。

(事務局)

発育に関しては、健康課で電話相談を行っており、子育て支援課でも家庭児童相談として相談を受けている。

(為貞委員)

相談できる時間帯はどうか。

(事務局)

開庁時間となる。

(井関委員)

ひとり親家庭の保護者が就労している場合には電話できる時間帯も限られる。なかなか繋がらず、相談時間を捻出することにも苦労する。

23 歳の指標について、「子どもがある世帯の世帯員で頼れる人がいないと答えたひとり親世帯の割合」の10.1%は低いと感じており、24 歳の父子世帯の正規職員の割合91.7%は就労時間が長いことも表している。平日日中に市の相談サービスを利用することは難しい。

障害の早期発見のためにも土曜日の日中などでも気軽に相談できる窓口があれば良いと感じている。近隣に発達障害について相談できる場所が少ないように感じるため、そのような機関との連携についても検討して欲しい。

(興石会長)

公立施設は制約が多いという難点がある。市としては職員の働き方改革等もあり難しいと思うが、いつでもどこでも相談ができるという体制は必要であるため、市民の声を取り入れた藤井寺市独自の施策をお願いしたい。

(小磯副会長)

中辻委員の意見にもあったが、障害児・障害者ふれあい支援センターの利用は小学生以上であるため、就学前の児童発達にも注目することがとても重要かと思うが、就学前の支援は主に保育所等が担っていくため、家族が送迎時に保育士に様子を尋ねてみることも大切であるし、集団生活の中でこそ障害の有無を見つけやすいという利点もある。

市役所も保育所等も時間に制限があるために、協働して支援を行き渡りやすくするにはどうすべきなのか考えていくべきではないかと思う。役割をどのように配分していくのか考えるうえで、すぐには無理かもしれないが、地域にも担っていただく体制づくりを考えてはどうか、と提案させていただきたい。

(輿石会長)

かゆいところに手が届くのは難しいが努力をすることは大切だと思うので、実践していただければと思う。

(龍見委員)

先程、実績の延べ人数が分かり難いという意見もあった。事業としては延べ人数の方がわかりやすいものの、本当に困っている人についての実数は提示していただきたい。

また、就労支援については、他分野に比べると実績の件数が少ないように思うが、事業内容が周知できていないのか、あるいはニーズが無いためか、その辺りの状況をお聞かせいただきたい。

(事務局)

延べ数でしか表せない事業があるため、次年度に令和5年度の実績報告をさせていただく際には、延べ数でしか表せない数値、実数で表せる数値を区別して表記するよう検討したいと思う。

就労支援に関する実績が少ないように見えるが、児童扶養手当の手続きに来られた方にひとり親家庭に関する各事業についてのチラシをお渡しし、案内に努めている。

(爲貞委員)

ひとり親の就労支援の各事業については周知も必要だが、実際利用するにあたっては、中長期的な計画で伴走的に支援する必要があるが、その辺りの状況についてはどうか。

(事務局)

中長期的な場合には、自立支援プログラムを立てることになる。

(爲貞委員)

看護学校や高等職業訓練所を利用する場合は、通学の間も子育てしながら経済的に成り立たせ、勉強する必要がある。生活費を支援する制度として高等職業訓練促進給付の制度はあるが、準備を含めると4~5年程度の中長期的な計画を一緒に立案してあげないと利用が難しいと思うが、行政側の支援としてはどうか。

(事務局)

本来であれば、市に母子父子自立支援員を配置する必要があるが、本市は社会福祉事務に精通している職員が兼務して相談に応じている。

(4)第三期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査の結果について

(興石会長)

事務局より説明をお願いする。

(事務局)

- ・資料 5 により説明

(興石会長)

この内容についてはいかがか。

質問等が無いようなので議題 5 のその他に移らせていただく。

(5)その他

(興石会長)

事務局から何かあるか。

(事務局)

- ・次年度の会議予定について連絡
- ・組織機構改革／市子ども家庭センターの設置について報告

(興石会長)

市の子ども家庭センターが4月から動き出すとのことだが、次回7月の会議では、センターの状況についても報告いただけると有り難い。

また、委員の皆さんには、会議の予定についてよろしくお願ひしたい。

それでは、進行を事務局にお返しする。

5 閉会

(事務局)

以上で第33回藤井寺市子ども・子育て会議を閉会する。

以上